

(1) 土佐清水市・市民憲章

- 一、この海は、わたらの海です
みんなで守りましょう
- 二、未来をになうこどもです
みんなで育てましょう
- 三、働くことは日々のよろこびです
みんなで励みましょう
- 四、豊かな文化は市民のねがいです
みんなで高めましょう
- 五、かけがえのないいのちです
みんなで大切にしましょう



土佐清水市民憲章が、昭和59年(1984)8月1日、市制施行30周年を記念して制定された。この憲章は、端的に言えば市民の憲法であり、新しい時代に適合した「まちづくり」「人づくり」をおこなうため、日常生活において市民として果たすべき実践を目標として定めたものである。

同時に憲章碑も建立され、市内足摺岬出身で当時・中村南小学校教諭であった宮崎一朋さんがデザインしたものであった。碑の石材を支える2本の柱は、生命の出発点である大地と海を表し、その自然の恵みを受けながら、更に飛躍する土佐清水市の未来を象徴して意匠されたものである。また、碑文題字は、市内小江町・書家横山才子さん(故人)が書いたものである。

除幕式には、小中高代表の児童生徒、憲章制作委員会の委員、工事施工者、議会や市執行部等約80人が出席して行われた。

当時の矢野川俊喜市長は、「土佐清水市の21世紀を展望し、すみよい豊かなまちづくりと市民の生活の充実のため市民みんなの指標として生かされるよう願っています」と挨拶した。

(参考・引用文献)・「市民憲章のシンボル・憲章碑完成 次代を担う小学生の手により序幕」(『広報とさしみず』昭和60年5月)

(2) 姉妹都市締結

フェアヘーブン&ニューベッドフォード、沖縄県豊見城市

昭和62年12月2日、郷土の先人・中浜万次郎との縁から、米国マサチューセッツ州のフェアヘーブンとニューベッドフォードの二市と土佐清水市が姉妹都市の調印

を交わした。

この調印式には、フェアヘーブunとニューベッドフォードの2市から18人の使節団員が来市され、盛大に調印式が開かれた。

調印に先立って、幡陽小学校の鼓笛隊を先頭に使節団一行、姉妹都市委員会のメンバー等が中央町商店街を練り歩き、パレードがおこなわれた。沿道では市民が日米の小旗を振って熱烈な歓迎ムードであった。盟約調印式は市民文化会館くろしおホールで多くの市民が見守る中で行われ、土佐清水市から和泉清市長、フェアヘーブunからジョセフ・カタルドー、ケネス・ウッド両行政代表者、ニューベッドフォードからマリア・トマシア市長代理が盟約書に署名し、土佐清水市民の祝福の拍手を受けて、友好親善の絆を深めた。

また、平成5年2月3日、中浜万次郎が帰国の第一歩を印した沖縄県豊見城村(当時)との姉妹都市盟約が、同村中央公民館で調印された。万次郎らは、米国から帰国して琉球国摩文仁間切の小渡浜に上陸した。その後、摩文仁番所で取り調べを受け、豊見城間切の翁長村の徳門(とくじょう)家に約半年間も滞在させてもらう。ここで家族のように大切に接してもらう。琉球には古くから「イチャリバチョーデー」という言葉がある。この意味は、「出会ったそのときから、お互いは兄弟のごとお付き合いをする」という意味である。万次郎は滞在した半年間に言葉では表せないほどの多大な恩を琉球の方々から受けたのである。このような万次郎との関係から姉妹都市交流が行われた。なお、当時の豊見城村は、現在、県都である那覇市のベッドタウンとして人口増加し、現在は豊見城市に昇格している。

平成30年2月18日、沖縄県糸満市小渡海岸にNPO法人ジョン万次郎上陸之地記念碑建立期成会によって「ジョン万次郎上陸之地記念碑」が建立された。そのお披露目式では、万次郎直系5代目中濱京さん、土佐清水市・磯脇副市長、仲田市議会議長も出席し、盛大に行われた。



左:市役所駐車場を歩く、米国都市使節団の人々。
右:万次郎像は、洋装でカウボーイハットをかぶり、左手にはボーディッチ航海術書等を携えている。右手は故郷・中浜を指さしている。

(参考・引用文献)

- ・神谷良昌『ジョン万次郎 琉球上陸の軌跡』琉球新報社、2021年。
- ・「広がるジョン万の輪 土佐清水市 沖縄・豊見城村 姉妹都市に調印」(高知新聞 平成5年2月4日)
- ・「市民の祝福の中 万次郎ゆかりの2市と姉妹都市に」(『広報とさしみず』昭和62年12月)
- ・「ジョン万次郎上陸之地記念碑お披露目式 in 糸満市小渡海岸」(『広報とさしみず』平成30年4月)